

大鰐町・・・ノーマイ市（アメリカ合衆国、ミシガン州）

Novi, Michigan, U.S.A.

1 提携年月日 平成3年12月20日（姉妹都市締結決議の日）

2 姉妹都市の概況

ノーマイ市は、米国自動車産業の中心地であるデトロイト市のベッドタウンのような街で、人口約48,000人の小都市である。

近くにはミシガン湖を始めとして、大小の湖があり、緑の多い美しい街である。カナダとの国境にも近く、冬は寒気が厳しい。

住民の生活水準は高く、教育に対する関心も高いものがある。

主な産業は、かつてはりんご栽培を中心とした農業であったが、現在はハイウェイで45分程度のデトロイトに職を求めている人々が多い。ビッグ3を始めとする米国自動車産業との結びつきが強いが、住民の対日感情は良好で、治安の良い、古き良き時代のアメリカを垣間見ることのできる街である。

3 姉妹・友好提携までの経緯

大鰐町とノーマイ市との交流は、平成元年当時、ノーマイ市に仕事の関係で滞在していた当町出身の方が、休暇帰省を利用して、二人の子供さんを自身の出身校である大鰐第二小学校に2週間の体験入学をさせたことから始まった。そのことから、大鰐第二小学校とノーマイ市のオーチャードヒルズ小学校との交流が行われ、両市町教育委員会、市町との交流へと発展していった。

平成2年度には、人材育成を主目的にした学生を対象とする国際交流事業を企画。その派遣先としてノーマイ市側に打診、その結果、ホームステイ並びに滞在期間中の日程に関して、市及び教育委員会の全面協力のもと、大鰐高生18名と大鰐町教育長他5名の派遣が初めて実施された。

平成3年9月に、ノーマイ市が姉妹都市提携を決議、大鰐町も同年12月議会において姉妹都市提携を決議し、ここに正式にわが町初めての国際姉妹都市の誕生となった。

4 交流の現状

平成12年頃までは両市町の教育委員会が中心となった中高生のホームステイを基本とした交流を進めていたが、諸般の事情により交流が中断している。

平成24年1月にノーマイ市から交流を再開したい旨の連絡があった。今後は手紙のやり取りをはじめ、中高生の交流の復活を目指したい。また、市民レベルの交流、教員や行政職員の交換留学等の可能性を探りながら、有意義な交流の再開を希望している。

5 交流の主な動き

平成 元年 4月 ノーマイ市オーチャードヒルズ小学生2名の大鰐第二小学校への体験入学

8月 オーチャードヒルズ小学校と大鰐第二小学校が姉妹校提携

3年 1月 第1回大鰐町海外派遣団ノーマイ市へ（大鰐高生18名、教育長他5名）

- 3年 9月 ノーバイ市議会、市教育委員会で「姉妹都市締結決議」採択
12月 大鰐町議会「姉妹都市締結決議」採択
- 4年 1月 第2回大鰐町海外派遣団ノーバイ市へ
(大鰐高生10名、大鰐中生5名、教育長他6名)
両市町の姉妹都市締結決議文を交換
6月 第1回ノーバイ市訪問団来町 団員4名
(教育次長、オーチャードヒルズ小学校教師他)
- 5年 1月 第3回大鰐町海外派遣団ノーバイ市へ
(大鰐高生6名、大鰐中生9名、大鰐高校長他5名)
6月 第2回ノーバイ市訪問団来町
(市長他7名、ノーバイハイスクール生14名)
ノーバイ市長、大鰐町長が姉妹都市締結決議の継続に関する盟約書に調印(6月29日)
- 6年 7月 第4回大鰐町海外派遣団ノーバイ市へ
(大鰐高生5名、大鰐中生10名、教育長他5名)
- 7年 6月 第3回ノーバイ市訪問団来町
(教育委員長他6名、ノーバイハイスクール生12名)
- 8年 7月 第5回大鰐町海外派遣団ノーバイ市へ
(大鰐高生2名、大鰐中生13名、大鰐中学校長他5名)
- 11年 9月 国際ロータリークラブのグループスタディエクステンジ(GSE)事業によりノーバイ市近郊から6名の教育関係者が来町
- 12年 5月 上記GSE事業で町職員1名を約1ヶ月間ミシガン州へ派遣
7月 第6回大鰐町海外派遣団をノーバイ市へ派遣
(大鰐高生3名、大鰐中生15名、教育長他5名)
- 25年 8月 ノーバイ市長ボブ・ガット市の手紙を携えて、アンソニー・レイ氏が大鰐町役場に来庁。大鰐町長の市長への手紙も託した。
- 26年 8月 ノーバイ市の小学生の手紙が届く。